

01	名古屋	守山小学校	トダゲンキ 戸田元輝
分科会番号	1	分科会名	国語教育（作文その他）

自己調整しながら、伝えたいことを適切に伝えることができる児童の育成（小5年）

1 何のために

現代社会では、日々多くの情報があふれ、SNSで気軽に発信ができ、AI技術が飛躍的な進歩を遂げている。その一方で、情報の真偽を判断したり、多様な価値観をもつ相手に自分の考えを分かりやすく伝えたりすることが求められている。とりわけ、価値観が多様化した社会で、児童が、他者と良好な関係を築き、自分らしく生き抜くためには、自分で物事を判断し、伝えたいことを適切に伝える力が大切になる。

本学級の5年生（32人）は、授業での振り返りや感想の記述を見ると、しっかりと自分の考えをもって活動に取り組んでいることが分かる。しかし、自分なりの考えや思いをもっている、話す場面になると、伝えたいことを言葉にできていなかったり、下を向き、聞き取りづらい声の大きさと話したりする様子が目立ち、話すことに対しての自信のなさを感じられる。また、自分の考えを伝えようとしても、聞き手を意識した話し方や伝え方の工夫が十分ではないため、思いや考えが伝わっていない姿も見られる。それは、児童一人ひとりがどのように話す内容を準備し、どのように話せば伝わるのか分かっていないことが原因だと考える。つまり、「伝えたいこと」はもっている、「適切に伝える方法」を十分に身に付けていないと言える。そこで、本実践では自己調整しながら、伝えたいことを適切に伝えることができる児童の育成をテーマに実践を進めることにした。

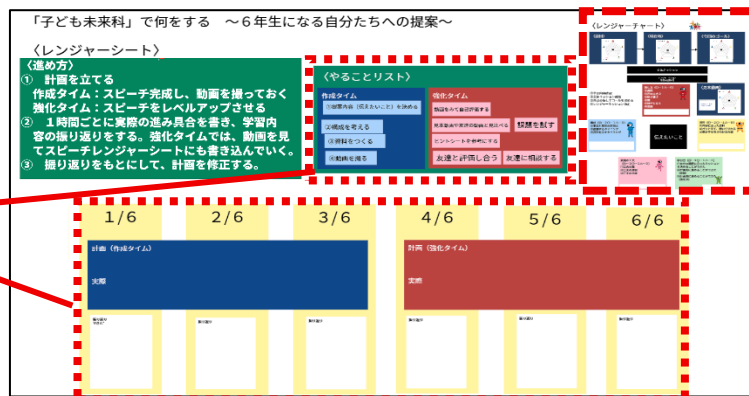
私の考える「適切に伝える」とは、伝えたいことに応じて伝え方を工夫することである。伝え方を工夫して表現するには、話し方、資料、構成、表現の工夫の4つの観点が必要である。また、伝え方を工夫する力を身に付けるには、自分の伝え方の課題に気づき、課題解決に向けて自己調整することが必要である。名古屋市が目指す教育の指針である「ナゴヤ学びのコンパス」では、子どもたちが自分で決めた学び方を実行する機会を保障し、自分の学びを振り返り、次の学習につなげていくサイクルを繰り返すことにより、自分で学ぶ力が付くと述べられている。本実践でも、把握した課題について振り返ることで課題が解決したかを確認するとともに、新たな課題を見付けることができるようにしたいと考える。そのためには、児童自身が課題解決に向けてどのように伝え方を工夫していくのかを理解する必要がある。また、学習後の自分の姿を具体的にイメージし、目指す姿に近付こうとする目的意識をもつことは、自己調整を進める上で重要であると考えられる。

2 実践計画

本実践では、「自己調整しながら、伝えたいことを適切に伝えることができる児童」に迫るために、2つの手立てを取り入れながら実践に取り組む。

手立て1 課題を把握し、学び方を振り返る「レンジャーシート」（次項資料1）

自身の発表動画を視聴し、話し方、資料、構成、表現の工夫の4つの観点に学び方を加えた5つの観点で自己評価した結果をレンジャーチャートに示すことで、視覚的に課題を把握することができるようにする。（次項資料2）課題を把握し、学習計画と進捗を比較しながら振り返りを繰り返すことで、目的意識をもって自己調整することができるようにする。（次項資料3）



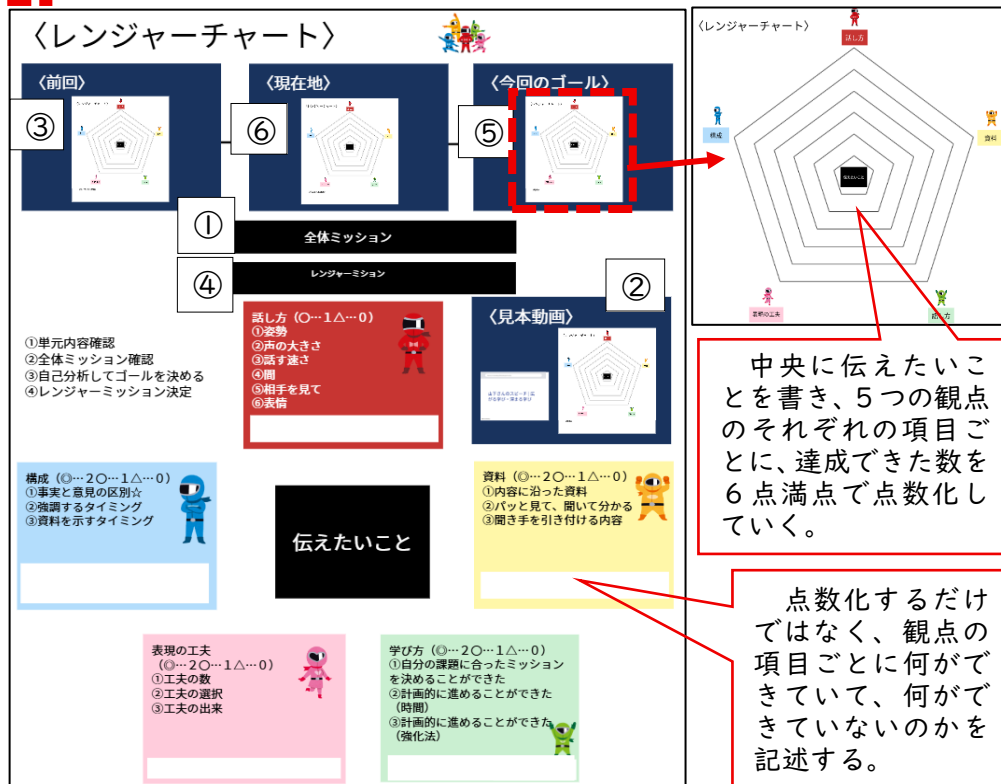
〔資料1「レンジャーシート」の全体像〕

① レンジャーチャート

(手順)

資料中①～⑥に対応

- 全体で単元のめあてを確認する。
- 見本動画を全体で評価することで、評価の基準をそろえることができる。
- 前の単元の自身の発表動画を見本動画と比較し、振り返り、自己評価し、課題を把握する。
- 個人のめあてを設定する。
- 今回の単元で達成したい目標をチャートに示す。
- 単元内で発表動画を撮り、自己評価を繰り返しながら、その時点での課題の到達度を把握する。



〔資料2「レンジャーチャート」の説明〕

② 学習計画&振り返り

自己調整する6時間のうちの作成タイムと強化タイムの時間配分の計画を立てる。
次に、作成タイムの①～④の計画を立てる。

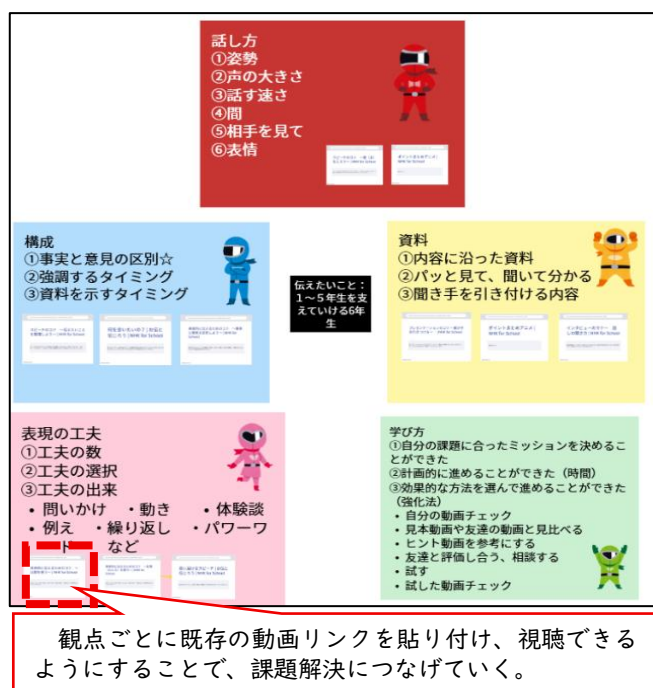
毎時間、取り組んだことや学習の進捗を振り返り、計画を修正したり、次時への課題を書いたりする。



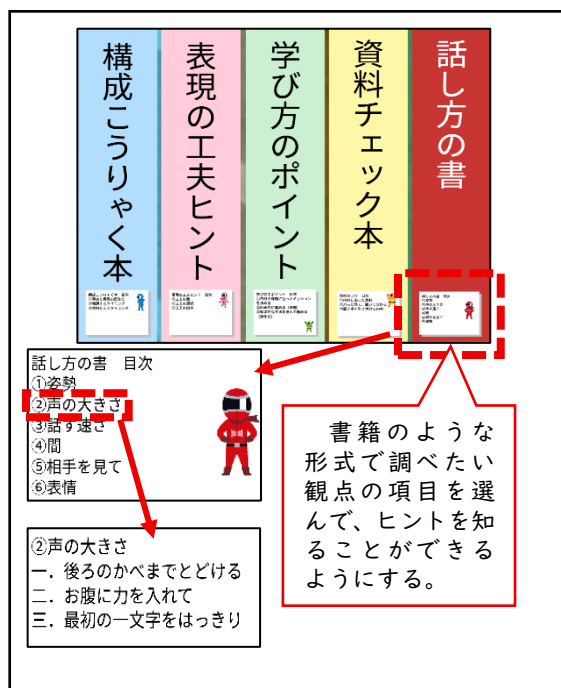
〔資料3「学習計画&振り返り」の説明〕

手立て2 課題解決のためのヒント「資料室」

「レンジャーシート」で明確になった課題を解決するために、観点ごとにまとめた動画資料（資料4）やヒント集（資料5）をいつでも閲覧することができるようにする「資料室」を活用することで、目指す自分の姿をイメージして伝え方を工夫する力を高めることにつながるようにする。



〔資料4「資料室」の動画資料の説明〕



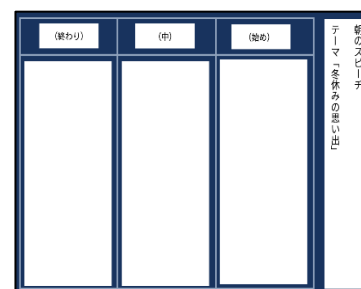
〔資料5「資料室」のヒント集の説明〕

日常のスピーチ活動で話すことへの意欲を高め、授業実践に2つの手立てを取り入れながら、実践を進め、目指す児童に迫る。

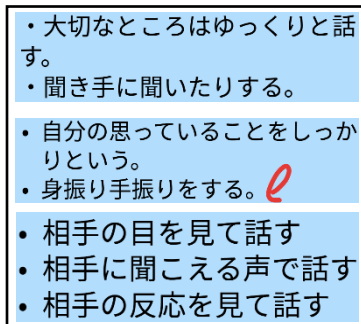
3 日常実践の様子

一学期の朝学習の時間に児童が話したいテーマでスピーチ活動を行い、人前で話すことに慣れたり、主体的にスピーチに取り組めるようにしたりして、話すことへの抵抗感をなくしていくことを目的として取り組んだ。

最初は、自分の考えに理由を付け加えるだけの内容で終わる児童が多かったため、1分間スピーチとした。時間の条件を付けたことで、多くの児童が発表原稿を用意してくるようになった。そこで、スピーチの構成を意識できるように共通の構成シートに書き込むようにした（資料6）。2回目以降はスピーチテーマを募集し、児童が話したい内容を選んだ。「もし一つだけ願いが叶うなら」や「小さい頃のエピソード」などのテーマでスピーチを行うことでスピーチの時間を楽しみにする児童も出てきた。スピーチ活動での児童の発表の良いところを話し合ったり、話すときに大切だと思うことを書いたカードを見合ったりする中で話し方を工夫しながらスピーチをする児童の様子も見られた（資料7）。また、一学期の「みんなが使いやすいデザイン」の学習で、資料を用いて発表する良さを確かめたことで、スピーチ活動でも積極的に資料を用いて話すようになっていった。スピーチの様子は毎回動画に撮っておき、見返すことができるようにした。



〔資料6 共通の構成シート〕



〔資料7 話すときに大切だと思ったことを書いたカード〕

4 授業実践の様子

(1) 単元

『子ども未来科』で何をする」(10月)〈10時間完了〉

(2) ねらい

聞き手に説得力をもって伝わるように、伝え方を検討しながら、適切に伝えることができるようになる。

(3) 授業実践の流れ

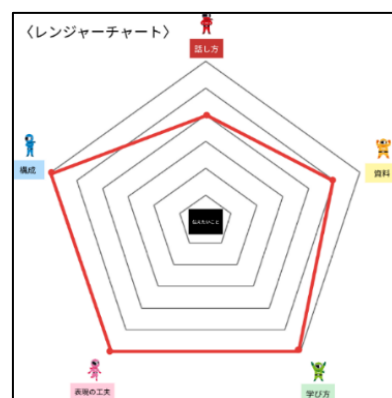
時数	学習活動
1	単元の目標と学習内容を確認し、学習の見通しをもつ。
2	今までの発表活動を振り返り、めあてを設定する。
3～5	スピーチの内容決定、構成、資料作成をする。(作成タイム)
6～8	学び方を選びながら、発表準備をする。(強化タイム)
9	発表する。
10	学習の振り返りをする。

〔資料8 実践の流れ〕

(4) 授業の様子

第1時

最初の授業では、単元の目標と学習内容を確認した。発表のテーマは、間もなく6年生を迎えるタイミングで目的意識をもちやすい「6年生になる自分たちへの提案」とした。そして、全体で教科書の見本動画を視聴して、意見を出し合い、「レンジャーチャート」に、話し方、資料、構成、表現、学び方の5つの観点で見本動画の評価をした(資料9)。児童は、「表現の工夫として問いかけをしている」や「話し方の間をとるとよい」、「ちょっと表情が硬くて変化がない」など観点の項目ごとに達成しているかどうかを評価することができた。



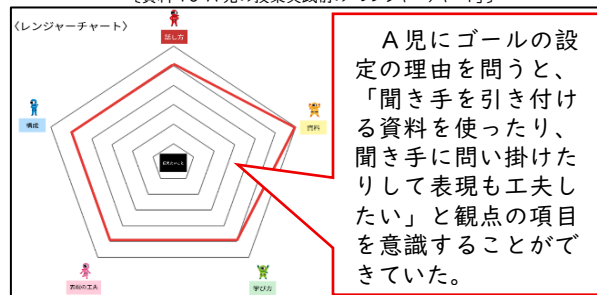
〔資料9 全体で見本動画を評価した「レンジャーチャート」〕

第2時

朝学習で取り組んだスピーチ活動での自身の発表動画を振り返り、自己評価をした。多くの児童が観点の項目ごとの達成度を基準にして自己評価することができた。A児は、自身の発表動画を見返すことにより、下を見て、聞き取りづらい声の大きさに話している現状を自己評価した(資料10)。そして、個人のめあてを「スピーチに工夫を取り入れて、資料を生かした提案をする」とした。全ての観点をレベルアップした上で資料と表現の工夫を特にレベルアップしたいという目標をもち、目指すゴールを設定することができた(資料11)。



〔資料10 A児の授業実践前の「レンジャーチャート」〕



〔資料11 A児の目指す「レンジャーチャート」〕

第3～5時

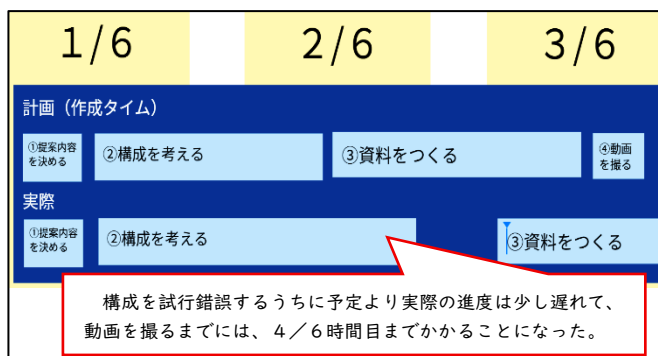
作成タイムでは、学習計画を立てた上で、「6年生になる自分たちへの提案」というテーマで自分が伝えたい提案内容を決め、構成を考え、資料を作成した。その初稿をもとにスピーチを行い、その様子を撮影した。学習計画をもとに学習を進め、毎時間、計画と実際の進度を照らし合わせながら、振り返りをした。計画表と振り返りを基に、児童一人ひとりの進捗や課題を把握し、必要に応じて、個人の課題や学習状況に沿った声掛けを行った。

A児は、3時間目までを作成タイムとし、力を入れたい資料づくりには、1時間かけて作成する計画を立てた（資料12）。また、提案内容を「目標をもち、努力する6年生」とし、構成シートに発表原稿を書き込んでいった（資料13）。その際、「資料室」の構成のヒント集を見ながら発表原稿を考える姿が見られた。毎時間の振り返りの記述を見ると、時間についての内容ばかりになっていたため、後半の強化タイムに向けて、時間の使い方だけでなく、個人のめあてについても振り返り、どうすれば説得力をもたせることができるかなど目的を意識するように声を掛けた。

1/6	2/6	3/6
計画（作成タイム）		
①提案内容を決める	②構成を考える	③資料をつくる
④動画を撮る		
実際		
①提案内容を決める	②構成を考える	③資料をつくる

構成を試行錯誤するうちに予定より実際の進度は少し遅れて、動画を撮るまでには、4/6時間目までかかることになった。

「資料12 A児の学習計画（作成タイム）」



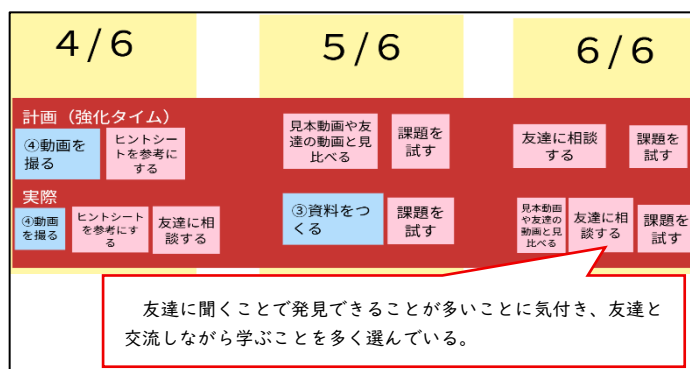
はじめ

僕は目標をもち努力をすることがとても大切だと考えています。目標をもつことは大切ですが、努力をすることもとても大切だと思います。

〔資料 13 A 児の構成シート（はじめ）〕

第6～8時

強化タイムでは、作成タイムで撮影した自身の練習動画を自己評価しながら、課題を見付け、解決するための方法を選び、実行した。「資料室」を活用したり、友達の動画と自身の動画を比べたり、友達に見てもらってアドバイスを求めたりするなど、様々な学び方で学習を進めていた。中でも、「資料室」を活用する姿は多く見られ、児童自身が動画教材とヒヤルを比較しながら、発表に生かす姿が見られた。しかし、動画教材は一本の動画の時間ごとには分類されていなかったため、必要な項目ごとに分類されていなかったため、役立てることができていない様子も見られた。動画の撮影、自己評価を繰り返し、課題を解決するための様々な学び方や表現の工夫を試していた（資料室）。資料室は、作成タイムではアスリートの言葉を聞いていたが、友達に相談する中で、有名な選手が使っていると聞き手を引き付けることができるという考えに至り、資料を修正した（資料室）。



なぜそう思ったかということ、かつこい6年生、頼りがいのある6年生そういつた6年生になるには目標が大切だと思うからです。目標があればそれに向かって真っすぐに進んでいけると思うし、目標をもったほうが、これから先のことを考えやすいと思うからです。そして目標をもつだけではなくきちんとこの方向かって努力することが大切だともえます。(資料ここでクイズ！、この人は誰でしょう？もちらすわかりますよね。大谷翔平選手です。この大谷翔平選手も目標をもち努力したことで、今このようになっていきます。

第9時

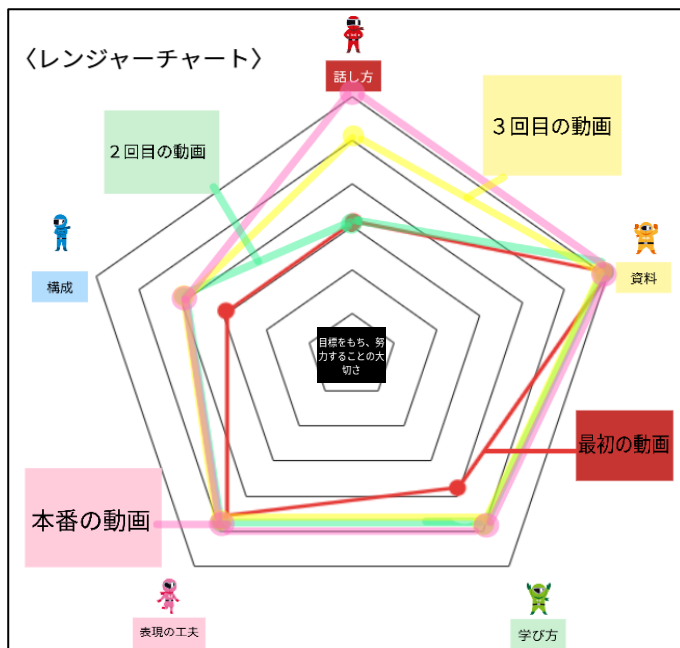
発表会では、児童は試行錯誤しながら準備を重ねてきた発表内容に、自信をもって発表する姿が多く見られた。また、ジェスチャーを入れたり、アンケートをとって資料を作成したりするなど聞き手に伝わりやすくするために工夫を取り入れる姿も多く見られた。

授業実践前には、小さな声で下を向きながら話していたA児は、目的意識をもって自己調整を繰り返した結果、間や目線など話し方の細部まで意識したり、試行錯誤して作成した資料を提示したりするなど、説得力を高めるために工夫が詰まった発表をすることができた。

第10時

本番の発表動画を振り返り、単元を通してできるようになったことの振り返りをした。計画表やチャートを見返し、自身の学習を振り返り、観点を意識して振り返る様子が見られた。

A児は、話し方の成長に手ごたえを感じていたものの（資料16）本番の友達の発表を聞いて、「もっと多くの人の表現の工夫を知って、生かしたかった」と学び方に課題を感じたようであった。また、「今回の学習を今後の朝のスピーチにも生かしていきたい」と振り返り、本単元で得た学びを次に生かそうとする姿が見られた。



〔資料16 試行錯誤を繰り返したA児の「レンジャーチャート」〕

(5) 成果と課題（成果…○、課題…●）

- 「レンジャーシート」を活用して観点ごとに自己評価を行ったことで、自身の課題を明確にし、目標を意識しながら発表準備を進めることができた。
- 児童が学び方を選択する場面は見られたが、その「学び方」や「話すこと」の目標について振り返ることは十分ではなかった。学び方の目的や成果を振り返る手立てを工夫する必要がある。
- 「資料室」の動画教材は活用されたものの、観点の項目との対応が十分でなく、課題解決に結び付いていない児童も見られた。課題に応じて活用できる教材の改善が必要である。

4 おわりに

児童一人ひとりの発表動画を見返してみると、実践前と後では、A児に限らず多くの児童が5つの観点を意識しながら、「適切に伝える」力を高めることができた。また、授業実践後の朝のスピーチでは、授業実践で活用したレンジャーチャートを活用したいという児童の要望もあり、児童が学びを次の学習へ生かそうとする姿も見られた。

しかし、あまり変化が見られなかった児童もいる。実践後にアンケートをとったところ、変化が見られなかった児童の記述には、「レンジャーシートが難しかった」と書かれていた。今後は、誰もが使いやすい「シート」にしていく必要があると感じた。変化が見られた児童の中でも「学び方の自己評価が難しかった」という回答があり、話し方の4つの観点と学び方を分けて振り返る必要があると感じた。私自身もこの学びを生かして、次の実践に生かしていきたい。